

# 深刻化する ニホンジカ食害から森林を守る

## 中部森林管理局

近年、南アルプスを中心に、野生動物による森林の食害が深刻化しています。このため、中部森林管理局南信森林管理署では、野生動物被害の対策として、様々な取り組みを行ってきたといえます。そこで、中部森林管理局南信森林管理署久保田廣署長に、おもな活動内容や今後の課題を伺いました。

### 防護柵や保護ネットを 設置し深刻化する ニホンジカ被害から防護

中部森林管理局南信森林管理署は、南北に一〇〇キロと広大で、東には南アルプス、西には中央アルプスが連なる地域を管轄しています。ニホンジカ（以下「シカ」）などの野生動物による森林への被害が確認されるようになったのは、昭和六〇年ごろから。シカが山に生える下草を食べ、徐々にササや灌木まで食べつくし、山一面がゴルフ場のようです。ここ五年ほど前からは、特に枯れ木が目立つようになりました。このような被害は南から少しずつ北上するとともに、三〇〇メートル級の高山帯の植物にも被害が及んでおり、今では管轄内外の広い地域でシカ被害が深刻な問題となっています。長野県全体で確認されたシカによる農林業被害は、昨年度は五億三〇〇〇万円にのぼり、野生動物被害の中で群を抜いており、県としてもシカ被害対策を最重要課題に位置付けています。

そこでまず私たちが取り組んだのが、森林被害を防ぐための防護柵設置です。高さ二メートル位の金網で

できた柵で造林地や天然更新地の周りを囲み保護しました。防護柵を張ることでシカの侵入を防ぎ、良い効果が現れています。しかし、防護柵は設置すれば終わりではなく、毎年点検や修理などの維持管理が必要です。これらは今のところ直営で毎年六〇ヘクタール位ずつ実施していますが、今後は設置面積を増やしていく計画です。

シカは草本類だけではなく、木の樹皮も食べます。また、角研ぎによつて幹に傷をつける被害も発生しています。諏訪大社の御柱大祭で使用するモミの御柱候補木への被害が今年度新たに三〇数本確認されたため、国有林との間で地域伝統文化の森を育てる協定を結んでいる「御柱の森づくり協議会」やボランティアと連携し、保護ネットの設置を始めました。これは御柱候補木一本一本にポリプロピレン樹脂製のネットを直接巻くことにより、シカによる食害を防ぐもの。保護ネットの設置は、来年度も引き続き実施する予定です。

### 防護から攻めの手段で シカ被害の縮小に向けて

こうした被害の拡大には、シカの



カラマツの剥皮被害



上：森林に防護柵を設置  
下：捕獲に向けた署内研修  
右：広域捕獲に参加協力



群れをなすニホンジカ

生息数の増加が原因だと考えられます。そこで捕獲対策として、職員を対象とした「鳥獣保護及び狩猟に関する研修」の実施や、地域の猟友会等関係者が連携した広域一斉捕獲への職員派遣等の協力をし、シカの生息密度を抑える取り組みを行っています。今年度は広域捕獲を三回実施し、合計一二五頭捕獲しました。また、国有林としては初めて、猟期の終わる二月中旬から三月末までに、三つの国有林で合計九〇個のワナを設置し捕獲を予定しており、この攻めの対策には地域から大きな期待が寄せられています。

数が増えている理由の一つとされています。森林官による林野巡視のほか、研究機関によるシカの解剖や行動範囲の調査など、シカ被害対策には情報収集が必要です。被害が出てから後追いで対策を取るのではなく、御柱など守るべきものは先に守り、捕獲にも力を入れ、少しでも被害の縮小に努めていきたいと思っています。

南信森林管理署管内は、豊かな森林はもちろん、貴重な高山植物からなるお花畑が広がる地域。今や地球温暖化防止を図るために健全な森林を育て、CO<sub>2</sub>の森林吸収効果を高めることが重要です。その為にはシカ被害対策が必須となります。今後も県や市町村などの地域関係者やボラン



ティアと連携をとって情報交換を行い、広域的に被害対策を進めていきたいと考えております。